

私が人並みはずれたジャーマン・シエパードへの探究心を持った理由には、2頭のジャーマン・シエパードを失ってしまった事から来ているのだと思います。

20年以上も前に、友人のように暮らしていたシエパードを原因不明の病気で失った出来事と、去年日本では取得できない世界基準の台雌としての資格認定を取得するため、やむなく韓国での公開試験に挑んだ先で、練習途中突然死してしまった2頭のシエパードが記憶の奥深いところからいつも蘇ってきます。

私にとつてのジャーマン・シエパードへの想いとは、幼いころからシエパードに憧れ、シエパードに惚れ、シエパードとともに生活する中で数々の良き思い出と、2頭の愛犬を失ってしまった出来事とが交差し合い、いつも複雑な思いに駆られてしまふのです。そのような想いからジャーマン・シエパードの探求というものをいつしか胸に秘め、その答えをドイツに求めたのだと思います。

振り返れば残念ながら、家庭犬としての日本でのジャーマン・シエパードのイメージはあまり良いものではなく、珍しい存在だったと思います。もちろん日本の住宅事情が関係し大型犬が少ないという事もあると思いますし、警察の捜査などで活躍する特別な犬として取り扱われていることで、捜索し犯人を襲撃する場面などが中心的に取り沙汰され、犬

ドイツ繁殖基準に基づき国内外で活躍

ドイツシエパード 探求の旅

凱旋
希求

文・写真 ビッグウッド犬舎
大木春

の中では特別視される傾向が生まれ、頭の良い賢いイメージも定着する中、一方では吠える、襲う、という悪いイメージも同時に世間へ植えつけられてしまったことも理由のひとつだろうと思います。

私の個人的見解としては、日本における警察犬としての発展が逆に日本のジャーマン・シエパードの本性を変えてしまったという点もつけ加えなければならぬ事実だろうと考えています。

警察犬としてのシエパードはそれなりに卓越したシエパードであり、その必要性や歴史的背景を非難しようとするつもりはまったくありませんが、牧用犬であり、警察の捜査や犯人襲撃などとは本来まったく無縁であるはずのジャーマン・シエパードがその従順さと利口さを買われ、警察犬としてぎりぎりの精神状態へ追い込んで訓練に耐えられる精神力を備えた犬や切羽詰った状況でアドレナリンをこころごとく放出するような犬を目指した繁殖の方が重視された結果、家庭犬としての温和なジャーマン・シエパードが少なくなってしまうと推測しています。

ドイツでは家庭犬としての登録頭数が今でもジャーマン・シエパードが一番多い国ですし、私がかつて私が抱いた従順で温和なシエパードを追い求め、シエパードを探求してみたい気持ちに駆られました。ジャーマン・シエパードの本場ドイツで、

繁殖者や愛犬家ならびに教育施設を数
百件訪問し、シェパードについて私なりに
本場ドイツにおいてすばらしいと感じた
点をいくつか紹介させていただきたいと
思います。

ドイツではシェパードの犬質が日本でよ
く見る警察犬や番犬などの使役犬とし
てのシエパードというよりは、家族の一員と
しての温和なジャーマン・シエパード繁殖
がポピュラーなようで、ドイツで見るジャ
ーマン・シエパードは全体的に温和でおと
なしいというイメージがしています。

それから私が一番五感を刺激された
点は何と云っても、ドイツでは愛犬家が
必ず愛犬に基本教育を与えていて愛犬
家は皆一応に教育と社会化が施された
ジャーマン・シエパードのすばらしさを自
慢し合い、教育がなされた家族の一員で
あるシエパードをそれぞれの飼い主が皆
誇りに思っているという点です。基本教
育と社会化については、日本の犬に服従
心をもたせる訓練の様子とほぼ方法や
道具は同じに見えても、そのアプローチ
の仕方に違いを感じています。強制的（飴
と鞭を使い）に犬を服従させるやり方
ではなく、まず犬に勇氣や強い精神力そ
して強固な忍耐力を身につけさせ、精神
的にも肉体的にも強い犬、心に余裕のあ
る犬へと導く教育がなされ、加えて人や
そのほかの動物がいかに友好的でかつ敬
服に値するかを教えているように感じて

ドイツで認められる犬を 作出することが失った 愛犬たちへの恩返し



ワイアのダックスフントのブリーディングも手がけ、
トレーニングも行っている。



トレーニング仲間と走る大木さん。



毎週のようにドッグ・ショーに参加
しているため、訓練は欠かせない。

います。私が想像するに、その中から芽
生えてくる犬の思考は、「自分は強い動
物でほかの友好的な動物には友情や愛
情そして慈しみや敬服の念を持つべきで
ある」と教えられているのだろうと感じ
ています。そのような、人間に見る規範
教育を犬自身に考えさせながら犬自身
に自らそれを守る強さを身につけさせる
養育的（飴と鞭を与えない）教育が、時
間をかけながらじっくり行われ子ども
に義務教育を与えるのと同じ感覚で施
されている現状に、私は心を打たれまし
た。それはドイツ人のジャーマン・シエパード
に対する家族としての愛情と友人とし
ての誇りの現れであると確信しています。

そしてその愛情と誇りを守るべくジャ
ーマン・シエパードを取り巻く文化のよう
なものが存在することにとっても共感を
覚えています。シエパードにそのような教
育や社会化を施すための仕組みや施設
がいたるところに存在し、クラブハウスと
呼ばれる寺子屋的存在の教育施設は最
低でも300坪の運動場に軽い飲食が犬
とともに語らいながらできるカフェが備
えられており、気軽にいつでも自由な時
間に、しかも安く使える仕組みとして、
そのような施設を200〜300人の愛
犬家が共同で会員となつて存在させてい
る。その現実には、とても有効で経済
的な仕組みであると学ばせていただきま
した。そして愛犬家のほとんどが子ども
と同じように最低週1日は犬の教育の
ために努力している光景はなんとも微
笑ましいものを感じます。

私はジャーマン・シエパードの繁殖者として、ドイツ気質の従順で温和で強い精神力を備えた、家族の一員として、信頼し合える友人として、存在価値のあるシエパードを探求し追及していくことが2頭の失った愛犬への恩返しになると信じています。そして現在、千葉と福岡で進行中のクラブハウス※運営をさらに充実させ、多くの愛犬家とともにドイツ式寺子屋の良さを伝え1頭でも多く、ひとりでも多くのジャーマン・シエパードとシエパードを愛する愛犬家が増えることを切に願っています。そして私も一愛犬家として、その同胞の輪の一員として犬たちの満面の笑顔に誇りと幸福感を感じることを夢見ています。